

今週（9月4日から9月8日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、当座預金残高が360兆円程度での推移となった。無担保コールO/N物は、先週に引き続き地銀業態の調達ニーズが乏しく、信託・証券業態を中心とした調達となった。4日は税揚げ等の要因により大幅な資金不足日となったものの、普通交付税の払いも大きかった事から弱含みで推移した。加重平均レートは低位横ばいの推移となり、3日積みとなる週末の8日も引き続き調達ニーズに乏しく、レート上昇には至らなかった。業態別では週を通して信託・外銀・証券業態で▲0.075～▲0.065%、地銀業態で▲0.075～▲0.045%、都銀業態は週後半から▲0.075%程度での出合いが見られた。ターム物は週を通してショートタームで▲0.05%前後の出合いが見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは、7日に2W・8,000億円がオファーされ、1,985億円（期落ち額1,932億円）と札割れになった。

●レポ市場

今週のO/N GCは先週の地合いを継いで、週初から資金調達ニーズが薄くなっており業者の担保確保のニーズから▲0.10%を下回る水準での出合いが続き、引合い自体も閑散とした状況が続くこととなった。

週初4日T/Nは▲0.10%前後の出合い。S/Nは▲0.115～▲0.105%程度の出合い。翌5日は▲0.12～▲0.11%程度の出合い、その後は▲0.11%前後の出合いが続くこととなったが、7日のS/Nは短国の発行が重なったことでレートが上昇し、▲0.095%程度の出合いとなった。週末8日には日銀の短国・国債買入オペがオファーされたことで再びレートが若干低下し、▲0.10%の出合いとなった。

SCIについては引き続き10yの330～340番台でタイトなレートで取引される銘柄が多く見られた。個別銘柄では5y130～132、10y336～347、30y51～55などにビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、海外勢の買い需要が一服しつつあると見られる中、四半期末を控えた担保ニーズを受けてか、レート水準は横ばいで推移した。全般的に閑散気味であった。

新発の入札は6日に6M物、7日に3M物の入札が実施された。6M物の入札は、WI取引では特段の出合いが見られない中、平均落札利回▲0.1983%、按分落札利回▲0.1823%と強い結果となった。応札額は7兆1,896億円と、前月の6M物の応札額9兆9,362億円より減少していた。3M物の入札は、WI取引での出合いがなかったものの、結果は平均落札利回▲0.2040%、按分落札利回▲0.1864%と強めの決着となった。応札額は11兆5,394億円と、先週の3M物の応札額15兆6,827億円より減少していた。

週初は品薄感が強かったものの、2本の入札を経たことで、週の後半には業者の在庫が積み上がっていたのか、8日の短国買入オペは予想上限の7,500億円でオファーされた。平均落札利回較差+0.007%、按分落札利回較差+0.005%と、小甘い結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、月の初旬で発行が少なかったことやオペへの売却が期待し辛い期内物の発行が中心であったことから、比較的落ち着いたマーケットとなった。週間発行総額は、4,200億円程度にとどまり、週間償還総額は5,700億円程度と、償還超のマーケットであった。先月末の大量発行により業者のポジションが膨らんでいたこともあり、マイナスレートでの発行がやや減少し、0%以上での決着も多く見られた。

7日にはCP等買入オペが、前回より500億円増額の3,500億円で実施された。応札対象銘柄が多かったことや特定銘柄が応札対象であったことから、応札額は8,058億円に増加し、平均落札レート▲0.005%、按分落札レート▲0.029%と、按分・平均ともに前回（応札額5,509億円、平均▲0.026%、按分▲0.040%）から上昇した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
9/4（月）	19,508.25	△ 0.009	109.80	△ 0.064	△ 0.098	3,602,500
9/5（火）	19,385.81	0.010	109.32	△ 0.064	△ 0.106	3,607,400
9/6（水）	19,357.97	0.005	108.51	△ 0.064	△ 0.102	3,612,700
9/7（木）	19,396.52	0.010	109.08	△ 0.064	△ 0.097	3,615,300
9/8（金）	19,274.82	△ 0.010	108.36	△ 0.065	△ 0.091	3,620,200

来週（9月11日から9月15日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
9/11 (月)	7月の機械受注統計(内閣府 8:50) 8月のマネーストック(日銀 8:50) 7月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30) 7月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)			
9/12 (火)		5Y 22,000億円 9/20発行		8月の英消費者物価指数
9/13 (水)	7-9月期の法人企業景気予測調査季報 (内閣府・財務省共管 8:50) 8月の企業物価指数(日銀 8:50)			8月の米生産者物価指数 8月の米財政収支
9/14 (木)		TB3M 44,000億円 9/19発行	20Y 10,000億円 9/20発行	英中銀MPC結果発表 8月の米消費者物価指数
9/15 (金)		TB1Y 23,000億円 9/20発行		8月の米小売売上高 8月の米鉱工業生産・設備稼働率 9月のミシガン大消費者信頼感指数速報 7月の米企業在庫

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
9/11 (月)	1,300	▲ 7,000	▲ 5,700	全店共通 CP買入 社債買入	▲ 1,900 ▲ 500 ▲ 200	2,000	▲ 600	▲ 6,300	TB3M発行▲44000償還43600 TB6M発行▲26000償還23300 物価連動10Y償還700 交付税借入▲10500期日10500
9/12 (火)	0	1,000	1,000	国債買入 短国買入 CP買入		8,800 7,500 3,500	19,800	20,800	
9/13 (水)	0	▲ 2,000	▲ 2,000				0	▲ 2,000	源泉税揚げ
9/14 (木)	▲ 1,000	2,000	1,000				0	1,000	
9/15 (金)	▲ 2,000	▲ 14,000	▲ 16,000	貸出増加支援	▲ 4,900		▲ 4,900	▲ 20,900	2Y発行▲22000償還8100 個人向け3Y・5Y・10Y▲2100 個人向け3Y償還200
週間合計	▲ 1,700	▲ 20,000	▲ 21,700	—	▲ 7,500	21,800	14,300	▲ 7,400	

9/11は日銀予想、9/12以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み最終週となることで、基礎残高やマクロ加算残高に余裕のある先からの調達によって一時的に強含む展開も予想される。無担保コールO/N加重平均レートは、横ばいから小幅上昇となることが見込まれる。

レボ市場は、積み期末が近づくことで資金調達ニーズが入る可能性もあるものの、全体としては引き続き概ね低調で▲0.10%前後の水準での引合いが中心になるものと見られる。

短国市場は、14日に3M物、15日に1Y物の入札が実施予定となっている。四半期末を控えた国内勢の担保ニーズの強さや、落ち着いたと見られる海外勢の動向等が注目される。

CP市場は、13日に日銀買入オペが3,500億円程度で実施される予定となっており、応札額やレートの動向が注目される。

主要なイベントとしては、海外では14日の8月の米国CPI、MPC結果発表、15日の8月の米国小売売上高等の発表が挙げられる。また、2017年9月～11月の積み期間に適用される、日本銀行当座預金のマクロ加算残高にかかる基準比率が11日の17時に公表される予定となっている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によりリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録書等をよくお読みください。